

船舶事故調査報告書

平成27年6月4日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成26年11月5日 21時30分ごろ
発生場所	長崎県平戸市平戸島南岸 尾上島灯台から真方位091° 2,400m付近 （概位 北緯33° 10.71′ 東経129° 21.49′）
事故調査の経過	平成26年12月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{めいせい} 明星丸、4.9トン NS3-600482（漁船登録番号）、個人所有 11.72m (Lr) × 2.73m × 0.91m、FRP ディーゼル機関、364.1kW、平成2年3月 第292-41075号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 56歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和54年5月11日 免許証交付日 平成25年1月31日 （平成30年2月7日まで有効） 甲板員 男性 29歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成20年10月21日 免許証交付日 平成26年6月5日 （平成30年10月21日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底外板の剝離及び擦過傷、プロペラ翼及びプロペラ軸の曲損、舵の脱落、潮流計センサの破損等
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、平成26年11月5日20時30分ごろ長崎県佐世保市の定係地（大崎）を出港し、平戸市高島に向かった。 船長は、日頃の疲れもあったので、操船を甲板員に任せて操舵室前方にある船員室で横になった。 本船は、甲板員が、操舵室で椅子に腰を掛け、手動操舵により約1

	<p>6～17ノットの速力で平戸島南岸沖に向けて西進中、眠気を感じたので右舷側の窓を開けて右肘を窓枠にかけ、左手で舵輪の上側を握って操縦していたところ、居眠りに陥り、21時30分ごろ平戸島南岸に乗り揚げた。(写真1参照)</p>  <p>写真1 甲板員の操縦姿勢</p> <p>船長は、衝撃を感じて船員室を出たところ、甲板員が眠っていたので起こし、周囲の状況から乗り揚げたことを知り、携帯電話で僚船に迎えに来るように連絡を取った。</p> <p>本船は、6日07時00分ごろ僚船に引かれて乗揚場所を離れ、11時00分ごろ佐世保市の造船所にえい航された。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.4mであった。</p> <p>船長及び甲板員は、本事故当時、17時ごろに出港し、佐世保市宇久島北方沖の漁場で、19時00分ごろから翌日の02時00分ごろまで底びき網漁を行い、04時00分ごろ定係地に戻って水揚げし、05時00分ごろ帰宅して09時00分ごろまで仮眠をとり、朝食をとった後に網のゴミ外し作業を行い、午後は休息して出漁に備える操業形態を4日間繰り返しており、慢性的な睡眠不足になっていた。</p> <p>甲板員は、本事故当日が月夜間（満月前後の明るい夜）であり、出漁しないので、午後の休息をとらずに網の修理をしていた。</p> <p>船長は、本事故当日、20時00分ごろ起床し、平戸市高島にいる親戚のところに行くことを思い立ったが、甲板員が午後の休息をとらずに網の修理をしていたことを知らなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、平戸島南岸沖に向けて西進中、甲板員が操舵室の椅子に腰を掛けて操船していたところ、居眠りに陥ったことから、予定針路から右転して平戸島の南岸に向かい、乗り揚げたものと考えられる。</p>

	<p>甲板員は、4日間繰り返しの操業で慢性的な睡眠不足になっていた上に、本事故当日に午後の休息をとっていないことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、甲板員が、右肘を窓枠にかけ、身体が右に傾いた姿勢で操船していたことから、居眠りに陥った際、舵輪を時計回りに回した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、平戸島南岸沖に向けて西進中、甲板員が操舵室の椅子に腰を掛けて操船していたところ、居眠りに陥ったため、予定針路から右転して平戸島の南岸に向かい、乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操船中に眠気を感じた場合、交替者がいれば、操船を交替すること。 ・ 睡眠不足を感じた場合、船長にその旨を申し出ること。

付図1 事故発生経過概略図

